

日経平均株価

2万5162円78銭

▼527円62銭(前日比)

TOPIX

1799.54

▼30.49(前日比)

2022

3/14

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒530-0005

大阪市北区中之島4-2-28 甲南アセット中之島ビル

TEL 06-6105-1904



必需品は節約志向追い風

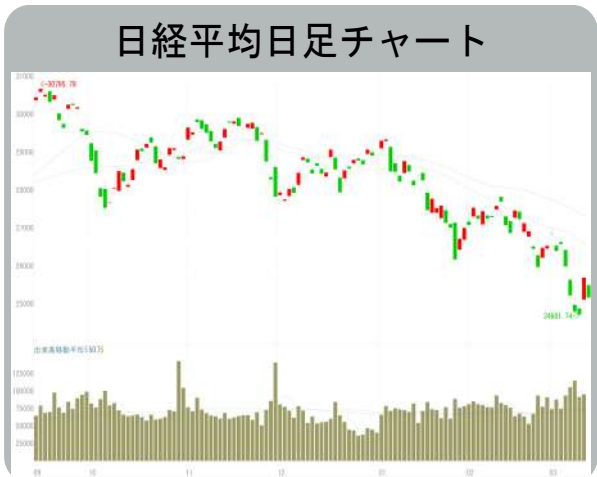
ディスカウントやリユース店に商機



業務スーパーの月次売上は拡大続く

購入する動きが活発化し、神戸物産(30)が「業務スーパー」を展開する。品や輸入品、冷凍食品など値

富に取り揃える。1年度の個別売上高は前年同月比で12.9%増と2桁増収となっており、2月以降も好調が続くという。岡山地盤の食品



既に食品メーカーからは即席麺やパスタなど、外食チェーンからも牛丼やバーガー類などの値上げが発表されているが、ここへきてのコモディティ価格の更なる急騰で、追加値上げへの懸念が高まっ

ている。一般消費者にとつては、節約するしかない状況になるが、生活必需品については、大手企業がの定番ブランドを避けて、プライベートブランド(PB)などを格安で販売するディスカウントストアで

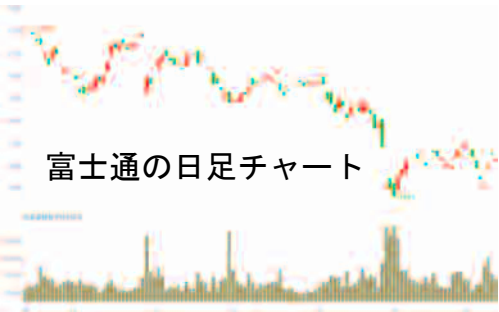
「業務スーパー」は、単独店の「デイオ」など展開を原料調

追加値上げへ懸念高まる

ウクライナ侵攻を契機としたロシアへの経済制裁により、原油や農産物を筆頭にコモディティ価格が急騰、これにより、各メーカーは原料などのコスト増を埋めるべく、更なる製品値上げに踏み切らざるを得ない状況になっている。最終製品への価格転嫁が進めば、消費者の買い控えが進むことになりそうだが、日々の生活に不可欠な食品などの必需品は、ディスカウントストアなど値ごろ感ある製品を販売する店舗にシフトすることになりそう。関連銘柄を探ってみた。

ごろ感ある食材を豊富

達から製造、物流までのコストを徹底したPBブランド「DPRICE」が高い評価を得ている。一方、食品以外では、リユースの需要が高まりそう。代表格はフリマアプリのメルカリ(4385)で、リユースショップ「2nd STORET」を全国展開するゲオホールディングス(2681)、専門性高い商材の中古品を展開するシュッピン(3179)などが注目される。



富士通の日足チャート

富士通6日ぶり急反発

利益下方修正も改革進展期待

9日、富士通(6702)が6日ぶりに急反発。2022年3月期の業績予想について、連結営業利益で2億7500万2千円から2億1000万1千円(前期比21.1%減)へ下方修正した。DX企業への変革加速へ人事施策の一環として、セルフ・プロデュース支援制度を拡充するため改革進展を期待する

9日、富士通(6702)が6日ぶりに急反発。2022年3月期の業績予想について、連結営業利益で2億7500万2千円から2億1000万1千円(前期比21.1%減)へ下方修正した。DX企業への変革加速へ人事施策の一環として、セルフ・プロデュース支援制度を拡充するため改革進展を期待する

買いが入った。

DELTAIP失望売り

DeltaPharma(4598)が一時ストップ安。2022年3月期単体業績予想について、売上高を1億円から3億円(前期3億円)、営業損益を1億3000万1千円から1億1000万1千円(前期1億1000万1千円)へ下方修正した。DX企業への変革加速へ人事施策の一環として、セルフ・プロデュース支援制度を拡充するため改革進展を期待する

アイドマ資本業務提携

10日、アイドマホールディングス(7373)が急反発。AI定性与信審査技術を用いたフィンテックサービスを提供するH.I.F.の株式

で、アライアンスによる業容と収益拡大が期待された。

アズワンは上方修正

(議決権所有割合14.98%)を約5億円で取得、資本業務提携すると発表した。同社の法人データベースとH.I.F.が算定した与信情報などを連携して債権回収可能性の判定や反社チェックなど幅広くソリューションを提供する方針

アズワン(7476)が急反発。2022年3月期の業績予想について、連結営業利益で8億6300万円から9億2000万円(前期比5.4%減)へ上方修正した。研究や開発向けが官民ともに需要が伸長、反動減を見込んでいた医療・介護向けも底堅く推移している。

実績8億円5200万の赤字)に上方修正したが、小幅な損益改善にとどまったことが失望された。日本ケミファ(4539)とのライセンス契約で契約一時金2億円を売上に計上するが、治験対象拡大や臨床試験開始に伴う研究開発費負担が重い。

GREEN 未来を企画するクラウドファンディング

MURAMO 株式市場新聞

プロスポーツ選手も認めた!

EyeTrainer II

企業観察

ハリマ化成G(4410)

カーボンキャプチャーに着手

ハリマ化成グループ(4410)は2030年に温室効果ガスを13年度比46%削減する政府方針に対して、3年前倒しして27年に政府目標を達成、30年には50%削減することを表明している。グループのSDGsやESGへの取り組みを一元的に取りまとめ、具体的対策を迅速に進めるサステナビリティ推進室を設置して対応を強めており、カーボンキャプチャーの研究にも着手した。

再生可能資源の松やにを原料に化学製品を幅広く手掛ける。バイオケミカルメーカーで、温室効果ガス削減はロジン、脂肪酸を精製す

CO2を化学製品や燃料原料に再利用

際に分離されるピッチ・ヘッドなどの副生物を燃料にしたバイオマス発電を中心に進めており、1980年代から取り組みを開始するなど歴史も古い。13年度に温室効果ガス排出をCO2換算で年間1万7000トンに削減、20年度には太陽光発電を交え1万4000トンと13年度比16.7%削減している。

さらに飛躍的な削減を可能にするのがカーボンキャプチャー。CO2を回収、化学製品や燃料を作るための原料として再利用する最先端技術で、実用化できれば温室効果ガス排出量ゼロもあり得る。

今週の動意銘柄

LNGプラント関連急伸

日揮ホールディングス(1963)、千代田化工建設(6366)が急伸。米エネルギー大手のセンプラ・インフラストラクチャーが三井物産(8031)などと合弁で運営する液化天然ガスプラントの生産能力を2027年に現在より196割増やして年約1900万トンにす

と伝わったことで、ビジネスチャンス拡大が期待された。ロシアのウクライナ侵攻でロシア産ガスへの依存を減らすため、増産分は欧州やアジアへ輸出するという。

レーザテック 失注懸念 (6920)が急落、全般が軟調地合いとなるなかで値を崩した。生産能力の限界から今後の失注懸念が強い。

コスモエネHD急反落

アラブ政府系ファンド全株売却

10日、コスモエネHD(5021)が急反落。筆頭株主のアラブ首長国連邦政府系ファンドのムバダラ社が資本提携解消に伴い、保有する全株株式を売却すると発表したことで、需給圧迫を懸念した売りに値を崩した。売出株数は1330



万株で、発行済み株式数の15.7%にあたる。売出価格は2450円に決まった。

公開価格4%下回る

セレコーポの初値 週末11日、セレコーポレーション(5078)が東証2部に新規上場、公開価格1900円を4.2%下回る1820円で初値が生まれた。同社はアパート経営の提案から設計、施工監理を行う賃貸住宅事業・賃貸開発事業とアパート管理を受託する

転ばぬ先のテクニカル

サイクルボトムを探る

先週の東京株式市場は4週続落となりました。大発会から4週続落、2週反発、4週続落という経緯ですが先週は週足窓空けの下放れと厳しい下落週でした。週半ばには日経平均の25日線乖離がマイナス7.5%に拡大し、売られ過ぎ感から買い戻しにより急騰する場面もありましたが、週末には往って来いというボラティリティの高まりがおさまりません。

今週は15~16日のFOMCで利上げが予定されており、パウエル議長の記者会見が注目されるので、ここであく抜けとなるのか注目されます。また週末にはメリマンサイクルの日柄変化日が到来します。五黄土星の今年は、この時期の下落はある程度予想されていました。間もなくサイクルボトムを確認し、上昇転換へと進むものと思われます。今は冷静に買い場を探る局面だと見ています。

日々勇太郎



チャート から読む 騰落銘柄

ホクシン(7897)



ロシア産木材の輸入制限措置で、国産MDF（中質繊維板）への需要増期待高まる。2月24日の137円を底に180円手前まで急伸、昨年10月26日の高値207円を目指す展開に期待したい。

DOWAHD(5714)



4日に最高値6150円をつけてから25日線レベルまで押し目を入れ、下ヒゲ陽線を引いて切り返す。今期63%営業増益予想も資源価格高騰で増額含み、現予想でPERは7倍台の低水準で再び青空相場へ。

花王(4452)



5000円割れでも下げ止まらず、4705円まで売られ16年11月の安値水準。150万株超の買い残重しで原料高による利益圧迫も懸念材料。次は14年10月安値の4000円トビ台までフシはない。

ZHD(4689)



25日線に上値を抑えられ下値模索が続く。500円割れ水準で下げ渋るも押し目買いに積み上がった信用残買い残が重く、再び5日線を下回る。週足に続いて月足も陰転の方向で、一段安を警戒。

今週の

活躍期待銘柄



日本水産(1332)

チリ産銀ザケに代替需要

国内養殖が想定以上に改善していることに加えて、南米養殖も好調に推移している。医薬用高純度EPAの将来性にも注目したい。(と)

同社はチリ産銀ザケで強味を有しており、今後は、ノルウェー産やロシア産からの膨大な代替需要が期待される。国内養殖が想定以上に改善していることに加えて、南米養殖も好調に推移している。医薬用高純度EPAの将来性にも注目したい。(と)

日本水産(1332)の株価は昨年10月14日に689円高値を付けた後に長らく下降トレンドとなっていたが、3月9日に497円の安値を付けたとは下げ渋る動きで、500円近辺は狙い場となる。ロシアによるウクライナ侵略は水産品の調達にも支障をきたしており、ノルウェー産アトランティックサモーンの対日空輸が滞っていることに加えて、6月中旬以降に漁獲期が始まるロシア産鮭も輸入は厳しくなるといわれている。

医薬用高純度EPAにも注目



フルヤ金属(7826)

2Q進捗率68%でPER8倍台

PERは現予想で8倍台の低水準で、1月に付けた最高値1万3480円から2月安値7800円までの下げの半値戻し1万6400円が当面の目標。(さ)

PERは現予想で8倍台の低水準で、1月に付けた最高値1万3480円から2月安値7800円までの下げの半値戻し1万6400円が当面の目標。(さ)

フルヤ金属(7826)は25日線回復のあと一呼吸入っていたが、切り返し本格反騰に向って来た。PGM(プラチナグループメタル)に特化した工業用貴金属製品メーカーで、高機能のシリジウムとルテニウム加工に優れた技術を持つ。スマホや医療機器、データセンター、半導体向けなど高付加価値品の需要増にレアメタル価格上昇に伴うスプレッド拡大も加わり、収益は飛躍的に伸びている。22年6月期第2四半期累計は連結営業利益80億1900万円(前年同期比4.2倍)で着地、通期計画の118億円(前期比12.9%増)に対する進捗率は68%に達する。

当面半値戻し1万6400円へ

潮流

現時点の悪材料は織り込む

プーチンと戦うウクライナと投資家

marKet/bAnk

バイデン大統領はロシアからの原油や天然ガスなど関連製品の輸入を全面的

に禁止すると発表した。

これまでの金融制裁の影響もあって原油の供給が細るのは確実視され、WTI原油先物相場は3月7日に130.5ドルを付け、2008年に付けた過去最高値の147ドル台に接近。原油価格が2020年4月のコロナショック時に▼37ドルまで売られたことが嘘のようだ。東京原油価格も8倍になった。

米国に対抗してプーチン大統領は、特定の製品や天然資源の輸出入を禁止・制限した。輸入の禁止や輸出の禁止は共に痛みが伴う。また、需給逼迫が意識されて上昇しているのはエネルギーだけではない。ロシアが主要産地のパラジウムやニッケルなども高騰し、小麦など穀物価格の値上がりも著しい。ガソリンや食料品など生活必需品の値上げは消費者を直撃し、経済的ダメージを受ける。

エネルギーや資源、穀物の価格上昇がどの程度続くのか、消費や企業業績への影響の大きさが株式市場を左右する。米政策研究機関「戦争研究所」は7日、戦況の分析で、ロシア軍が「96時間以内にキエフへの総攻撃を開始する」可能性を指摘した。米国防総省高官はロシア軍が

ウクライナ周辺に集結させた15万人超の部隊のうちほぼ100%を投入したと発表。

総攻撃となれば戦闘が激しさを増し、ロシア軍によるキエフ陥落となるか、ウクライナ軍の徹底抗戦で阻止できるか、大きな山場を迎える。

株式市場は日米共に調整局面が続いている中、日経平均とTOPIXは年初来安値を割り、売り圧力が強まった。一方、米国はダウ平均とナスダック総合指数は年初来安値を割り込んでいない。ただ、日本株に変化の兆しが出始めた。エネルギーや資源価格が高値を更新した次の8日に石油株や資源株が急反落となった。

また、東証1部の空売り比率は8日に48%まで上昇した。投資家が総弱気になった時が大底。資源株の動きと投資家心理を捉えれば、現時点での悪材料は全て織り込んだようだ。10日に日経平均が一時1000円も大幅上昇したことが証だ。プーチンという狂気の独裁者が手を引かない限り株式市場は不安定な状態が続く。プーチンと戦っているのはウクライナと投資家だ。

潮流銘柄はカネカ(4118)、オーエスジー(6136)、日本製鉄(5401)。



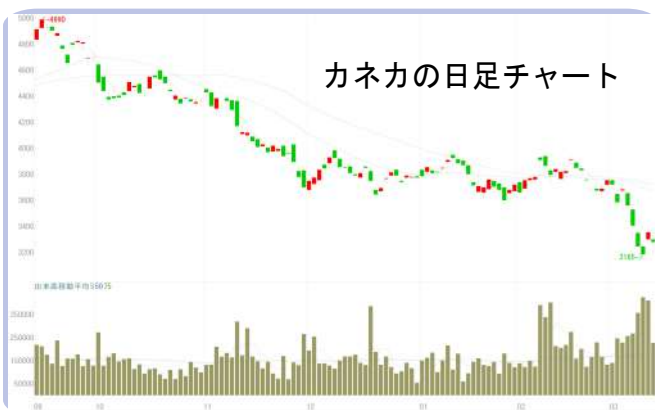
岡山憲史氏(株式会
社マーケットバンク代
表取締役)のプロフイ
ール

1999年2月日本初
の資産運用コンテスト「第
一回S1グランプリ」にて
約1万人の参加者の中か

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

キエフ総攻撃で山場迎える

カネカの日足チャート



星野三太郎の 株街往来

～自国のことは
自国で守る～

★ 安倍元首相や維新の松井党首などから核武装の議論が出てきているが、その賛否両論はともかくとして、国を守る論議はすべきだろう。

ないことを痛感した。日本では憲法9条で「戦争の放棄」や「戦力の不保持」、「交戦権の否認」を定めていて、憲法の基本原則として「平和主義」を規定している。日本が平和主義を掲げていても、攻める側にとって、そんな平和主義は関係なく攻めてくる。今回のウクライナ侵攻で自国のことは自国で守るしかないだろうか。

いを強く思う一方で、21世紀の時代に世界のお手本になるべき超大国が、悪魔のような殺戮を行うはずはないと思いついていた面もあった。あり得ないと思つていたことが実際に起こったことで、多くの日本人が危機意識を持ったのではないだろうか。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が泥沼化の様相を呈してきた。日本での日々の生活では、第2次世界大戦のことが歴史の教科書に書かれていたり、TVドラマや映画などで戦時中のことが描かれていたりするが、それを実際に観て反戦の思

ロシア



New product

カルビー 春夏限定で全国発売 「かっぱえびせん 桜えび」



かっぱえびせん 桜えび
の旨みと香ばしさをアップ。丸ごと練り込んだ桜えびの旨みと程よい塩味が絶妙にマッチした美味しさに仕上げている。スティックは見た目にも可愛い桜色で、定番商品より細めの生地なのでサクサクと軽い食感とくちどけが楽しめる。既に3月7日から全国のコンビニエンスストアで発売しており、21日からはコンビニエンスストア以外でも発売する。

カルビー（2229）は桜えびを丸ごと練り込み、サクサクとした食感に仕上げた「かっぱえびせん 桜えび」期間限定で発売する。

春夏の期間限定商品として人気の「かっぱえびせん 桜えび」の今年の商品は桜えびを丸ごと100%使用し、桜えびの旨みと香ばしさをアップ。

スティックは見た目にも可愛い桜色で、定番商品より細めの生地なのでサクサクと軽い食感とくちどけが楽しめる。既に3月7日から全国のコンビニエンスストアで発売しており、21日からはコンビニエンスストア以外でも発売する。

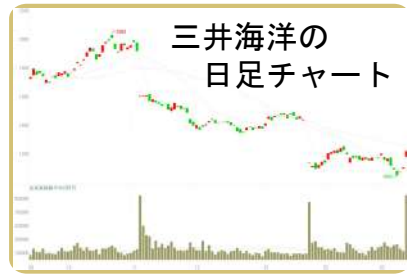
住友ゴム ニューモデル4月8日発売 ロングセラー「スリクソン DISTANCE」



「スリクソン DISTANCE」のニューモデル
「スリクソン DISTANCE」のニューモデルを4月8日から販売する。

高反発ソフトコアと高反発薄カバーにより前作からの飛距離性能を維持しながらやわらかい打感を実現。アライメント機能を備えたシンプルなデザインのサイドマークは、ティーショットやパッティングをサポートする。包装材におけるプラスチックの使用量を、2019年比で2030年までに全社で40%削減、スポーツ事業においては半減することを目指しており、NEW「スリクソン DISTANCE」においても、スリーブ箱（3球入り箱）の窓フィルムを廃止している。

住友ゴム工業（5110）グループのダンロップスポーツマーケティングは、1999年の発売以降多くのゴルファーに愛され続けているロングセラーモデル



短期的な動きに反動が過剰な判断の可能性がある。ロシア軍はキエフに

2月5日線の98・98ドル手前で下げ止まっており、WTI原油先物は3月8日に一時130ドルを超える場面があったが、この欄を執筆している段階で106ドル台まで下落している。

3月第2週の株式市場は、アラブ首長国連邦(UAE)が増産を支持していると明らかにしたことで、WTI原油先物急落、これを受けて10日は日経平均で一時1000円を超える上げ幅となったが、週末の11日は再び2万5000円を割れる場面があった。

接近しており、ウクライナ情勢も好転する兆しはない。11日は2万5000円前後で押し目買い意欲は強く、懸念材料は織り込みつつあるものの、14日以降もウクライナ情勢で一喜一憂する展開に変わりはなく、値の荒い展開が想定される。今週は15日と16日に米連邦公開市場委員会(FOMC)、17日に英金融政策委員会(MPC)、17日と18日に日銀金融政策決定会合が開催される。

2月18年1は2月以来の利上げが確定しており、実視され、25%への引き上げがコンセンサス。の上昇は、の利上げに合わせた後

し次第では、荒い値動きになるかも知れない。日本郵船(9101)や川崎汽船(9107)の海運株やINPEX(1605)などのプラント関連が引き続き強い動きとなり、出遅れていた三井海洋開発(6269)などが週末に物色されていた。原油価格が再度下落しない限り物色の流れに変化はないだろう。半面、レーザーテック(6920)や東京エレクトロ(8035)などの半導体関連やトヨタ自動車(7203)などの自動車は下値模索が続いており、全般相場の落ち着きには、銘柄の底打ちを待つしかな

記者の視点 相場見通し

値の荒い展開つづく

経済・政策金利見通しでも：

底値波乱が続いている。抜け穴はあるとは言え、欧米に日本を加えた経済制裁による包囲網が整い、ロシアもそう長々と戦争をしていられないだろう。ただ、ウクライナ情勢の悪化は原油や資源、穀物を含めたコモディティ価格高騰を通じてインフレ圧力を強め、米金融政策に影響を及ぼす。当面は神経質な展開を覚悟せざるを得ない。

編集後記

それでも、上にも下にも値幅が出るのだから短期売買にはチャンスはある。ただし、売買は2回に分け、見切りは早くセオリーを守って割り切った対応が必要。

今週のスケジュール

- ・15日 中国2月工業生産、中国2月都市部固定資産投資、中国2月小売売上高(11:00)
FOMC(~16日)
米2月生産者物価(21:30)
- ・16日 2月貿易統計(8:50)
スマートエネルギーWeek(~18日東京ビッグサイト)
春闘集中回答日
パウエルFRB議長会見(経済見通し)
米2月小売売上高(21:30)、米2月輸出入物価(21:30)
米3月NAHB住宅市場指数(23:00)
- ・17日 日銀金融政策決定会合(~18日)
1月機械受注(8:50)
2月首都圏新規マンション発売(14:00)
米2月鉱工業生産・設備稼働率(22:15)
- ・18日 黒田日銀銀総裁会見
2月消費者物価(8:30)
1月第三次産業活動指数(13:30)
米2月中古住宅販売件数(23:00)

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。